

授業計画表

教科名	理容総合理論【関係法規制度】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道徳の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、理容師法①	理容師法の目的と歴史、理容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	理容師法②	理容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	理容師法③	理容所（理容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	理容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	理容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、理容師法⑥	公衆衛生のあらまし、理容の業務と消毒の関係
21～22	理容師法⑦	理容所の環境衛生
23～24	理容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	理容師法の今後の課題（理容師法をめぐる論議、理容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	理容師法の復習（理容師法の難しさ、理容師法の内容）

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。理容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、理容に関する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1	人と感染症	感染症の歴史を学ぶ。
2～8	感染症の法律と侵入経路	1類から5類、呼吸器侵入、消化器侵入、細菌、ウイルス学ぶ。
9～12	病原微生物	微生物の種類、おおきさ、構造を理解。
13～15	備瀬物の増殖と環境	細菌をウイルスの増殖について学ぶ。
16～17	病原性と感受性	毒素感染はつびょうについて学ぶ。
18～21	予防接種と感染症発生の要因	定期的予防接種と感染源、感染経路を理解する。
22～24	空気・飛沫を介しての感染症	結核・サーズ・マーズ・インフルエンザ等を理解する。
25～30	飲食物を介しての感染症	赤痢・O-157・A型肝炎を理解する。
31～32	血液を介しての感染症	B型肝炎、C型肝炎、エイズ等の理解する。
33～34	動物・節足動物を介しての感染症	ラッサ熱・ペスト・デング熱等の理解する。
35～37	消毒の原理と意義	殺菌・消毒・滅菌について学ぶ。
38～43	消毒法各論	理学的・科学的消毒の理解。
44～46	消毒法実習	各種消毒薬の濃度と希釈を理解。
47	衛生的取り扱い	施設・設備器具類のしょうどくについての理解
48～49	消毒の自主的管理体制	血液付着器具類の消毒についての理解
50～52	まとめ・国家試験対策	全般について学びなおす。

教育目標 ねらい (到達目標)	感染症について、的確な知識、技能を会得
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	感染症の具体例と消毒法についての実習
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	
1～3	対外保護作用	皮膚が外力、紫外線、科学的刺激に対して保護を理解する。
4	体温調節作用	外気温が高いとき、低いときの保護を学ぶ。
5～7	分泌排泄作用	皮脂と発汗について理解する。
8	吸収作用	吸収がどのようにして行うか学ぶ。
9	再生作用	皮膚の損傷が治るのを学ぶ。
	第5章 皮膚と付属器官の保健	
10～12	皮膚と前駆状態①②③	貧血、心臓病、肝臓膵臓の障害と皮膚を学ぶ。
13	皮膚と栄養④	栄養素が必要かを学ぶ。
14・15	皮膚の乾皮脂性ホルモンとの関係 ⑤⑥	乾皮・脂性の皮膚について学ぶ。
	第6章 皮膚と付属機関の疾患	
16	皮膚疾患の原因と治療法	皮膚疾患のアレルギーと感染について学ぶ。
17・18	湿疹、皮膚炎	かぶれの原因を理解する。
19・20	角化異常 分泌異常	ニキビや腋臭症を学ぶ。
21・22	化膿菌・ウィルス・真菌	トビヒ。ヘルペス、ミズムシを学ぶ。
23～25	衛生害虫・毛と爪・腫瘍	ヒゼン、脱毛症について学ぶ。
26～30	まとめ・国家試験対策	全般を学びなおす。

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
------------------	--------------------

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	堀江忠史[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	磯部臣史[有]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	第5章ヘアセッティング①②	カットと並んでヘアスタイルを作るには重要な技術であるヘアセッティング。多様な技術を習得する。
3～6	ヘアセッティング③	スタンダードヘアの基本セットやデザインヘアの多様なセットに対する技術とそれに伴う整髪料について理解する。
7	ヘアセッティング④	レディースヘアのスタイリングについて、ブラシ、ドライヤー、アイロンなどを用いた毛髪の損傷に注意した技術を学ぶ。
8～12	第6章パーマセット①	パーマントウェーブを美しく仕上げるために、用剤の種類や特徴、かかる仕組みを理解する。
13～15	パーマセット②	ワインディングについて、パーマをかけるためにどのように配列し、どのように巻き込むかを理解する。
16～20	パーマセット③④⑤	パーマを実際にかける上での工程や手順についてを学ぶ。また、アイロンパーマやデジタルパーマについても理解する。
21～22	第7章ヘアカラーリング①②③	ヘアカラーリングの歴史や効用について理解し、各染毛剤の種類とその原理について学ぶ。
23	ヘアカラーリング④	染毛剤の安全性と使用上の注意点について、間違った使用による事故を防ぐためにも十分に理解する。
24～25	ヘアカラーリング⑤⑥⑦	ヘアカラーリング技術のプロセスや手順を学び、発色の仕組みを理解する。
26～28	第11章シャンプー＆リンス①	頭皮・毛髪を清潔に保つことが毛髪美の根本であることを理解し、シャンプー剤や技法について科学的理解を求める。
29～33	シャンプー＆リンス②	シャンプーの方法の種類についての理解と、それぞれのメリット・デメリットを確認する。
34～38	シャンプー＆リンス③④	シャンプーの各技法について、効果的に汚れを落としマッサージ効果を高める方法を理論からしっかり学ぶ。
39～44	第13章ヘアトリートメント①②③	ヘアトリートメントの目的や種類について理解し、一例を通して技法を学ぶ。
45～50	第14章スカルプトリートメント①②③	頭皮に対するトラブルに対しての処置を理解し、一例を元に方法を理解する。
51～90	まとめ・国家試験対策	理容技術理論について全般に理解度を高め、理容師国家試験に合格するための対策として全般に学びなおす。

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論1・理容技術理論2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

理容師免許を有し理容所において勤務

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人でできるようにする。	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室において実習形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応	理容師国家試験受験資格	
関連科目	理容技術理論、理容総合技術	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティール専門学校 理容師実技試験マニュアル	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

理容師免許を有し理容所において勤務

授業計画表

教科名	理容総合理論【運営管理】						
対象科	理容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	理容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	理容業と人事管理、理容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、理容業と料金
13～14	経営管理②	理容業と経理、理容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	理容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	理容ビジネスの将来	今後の理容業はどうなっていくのか

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の
実務経験
の有無について

教育目標 ねらい	対サロンワークで今後実際に起こりうるであろう外国人対策と、国家試験（筆記）を合格するために、いろいろな問題集などを用い理解度を深める。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深め、国家試験（筆記）の合格率を高める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	関係法規、運営管理、衛生管理、理容保健、化粧品化学、理容文化論、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 ワークブック、外国語

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

理容師免許を有し理容所において勤務

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	
関連科目	理容実習、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

理容師免許を有し理容所において勤務